

1 花巻市の生涯学習の現状と課題

(1) 「生涯学習」の周知度と理解度

市民意識調査の結果によると、「生涯学習ということばを聞いたことがありますか」という設問に対し、88.2%の方が「聞いたことがある」と答えています。平成10年度の県の同様調査では86.1%ですから、2ポイントほど市民の周知度が上回っています。この結果から、生涯学習という言葉は市民の暮らしのなかに十分定着しているのとらえることができます。

しかしながら、その言葉の意味の理解度となると、おそらく各人さまざまにとらえ方をしているものと思われます。本年8月、市内26の振興センターを単位に実施したワークショップにおいては、「いったい生涯学習ってどんなこと?」、「間口が広くて、なんともわかりにくい」という意見、なかには「お年寄りのやっているのが、生涯学習なんだろう」とか、「趣味活動が生涯学習じゃないの」、「生涯学習は暇な人がやるものでオレにはそんな暇はない」、「昔から『学習』という言葉がきらいだった。なにか上から押しつけられるような気がするし、しかも生涯にわたってとなれば、なおさらだ」等々、いろいろな感想が出されました。

このことから、生涯学習という言葉に対する周知度は結構高い割には、その理解度となると、いまだ十分といえない現状にあるということができません。

(2) 分野別にみる現状と課題

① 家庭と地域の教育力の向上

―― 子育ての環境 ――

- ◆ 平成19年4月、子育て支援の拠点として生涯学園都市会館内に「こどもセンター」を開設し、子育て中の多くの方に利用されています。また、こどもセンターは、親子が自由に遊べるスペースを備え、育児相談や子育てサークルの支援に加え、ファミリー・サポート・センター事業も行っています。
- ◆ ファミリー・サポート・センター事業は、家庭的な環境のなかで子どもが

リラックスでき、保護者や子ども、地域にとってお互いに関心を持ち交流の輪が広がるもっとも有用な事業ととらえていることから、育児の援助を受けたい人・援助したい人の会員登録数をさらに増やし、事業の未実施地域に拡大する必要があります。

- ◆ また、子育て家庭の親の育児不安や負担感、孤立感が増加の傾向にあり、これを解消するための相談体制の充実を図る必要があります。

—— 児童生徒を取り巻く環境 ——

- ◆ 児童生徒の登下校中の事故や、不審者の出没など昨今の学校をめぐる事件の頻発を受け、子どもの安全確保に対する関心が高まっています。これに対応して地域住民が登下校時の見守り体制を整え、活動している自治会や町内会があります。
- ◆ また、子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を確保するため、市内に15の学童クラブと1つの児童館が設置されています。さらに、放課後や週末等に小学校の余裕教室等を利用し、地域住民の参画を得て子どもたちとともに勉強やスポーツ、文化活動、地域住民との交流活動等を行う「放課後子ども教室推進事業」を9つの小学校学区で開設しています。
- ◆ 学童クラブでは、大規模な学童クラブを適正な人数規模へ移行する方針が示されており、その対応が求められています。また、放課後子ども教室推進事業では、学習アドバイザーなど地域の人材の確保が課題となっています。
- ◆ 生活形態の変化や外遊びの減少など、子どもたちの体力低下が懸念されています。また、食生活の乱れやテレビゲームの浸透、夜更かしの傾向など、子どもたちの生活習慣に課題が生じています。

—— 子どもとのコミュニケーション ——

- ◆ 家庭内の会話や親子の対話不足、児童どうしのふれあいが少ないこと、地域や世代間のコミュニケーション不足が指摘されています。（生涯学習に関するワークショップ）
- ◆ また、少子化の進行に伴い、地域で子どもを対象にした交流活動を開催しても、参加者が少ないなどの現状も指摘されています。
- ◆ こうした課題を解決するため、地域ぐるみであいさつ運動を積極的に推進することや、ふれあいの場づくりの推進が求められています。

② 就学前教育の充実、学力向上の推進

—— 学校教育 ——

- ◆ 小学校に上がる時点で集団生活になじめなかつたり、基本的な生活習慣が身につけていなかつたりする「小1プロブレム」が顕在化しており、小学校低

学年の授業や生活指導に困難を来す事例が生じています。

- ◆ 一方で、少子化や親の就労形態の変化等に伴い、幼稚園、保育園の定数の充足状況に不均衡が生じており、教育環境、保育環境の格差が見られます。
- ◆ 一人ひとりの子どもに確かな学力を身につけさせるため、実態に即した教育課程の工夫改善を図りながら、学力の維持・向上を推進することが必要です。
- ◆ 国際化、情報化の進行、若者の就業観の変化など、社会経済の状況の変化に対応した教育が求められています。また、「読書離れ」「活字離れ」が進み、児童生徒の読解力の落ち込み、「学ぶ意欲」の低下等が指摘されています。

③ 各種講座の充実

—— 生涯学習の状況 ——

- ◆ 花巻市生涯学園都市会館をはじめ、大迫交流活性化センター、石鳥谷生涯学習会館、東和コミュニティセンターにおいて、市民講座や高齢者教室、女性学級などを開催しており、多数の市民が学習活動に参加しています。また、平成19年4月、地区公民館が振興センターとしてスタートし、これまでの公民館事業を継承して地域の生涯学習を推進しています。
- ◆ しかしながら、「受講したい講座が中心部に偏っている」との意見や、振興センターによって生涯学習への取り組み状況が違うなどの指摘があることから、地域の特性を生かしつつ講座等の巡回開催など、市民が均等に生涯学習の機会が得られるよう工夫する必要があります。（生涯学習に関するワークショップから）
- ◆ また、市が主催する講座等について、「講座のメニューが不足している」や「時間帯が合わない」「年代やレベルに応じたメニューがない」などの意見が寄せられており、講座の内容や方法について市民ニーズを把握するなど、参加しやすい環境が求められています。（生涯学習に関するワークショップから）
- ◆ 地域の団体やグループでは、市が行っている「生涯学習講師派遣事業」や「ふれあい出前講座」を活用し、主体的に学習活動や趣味的な活動に取り組まれています。また、市民講座等を受講した参加者どうしがサークルを結成し、引き続き学習活動等を行うなど、主体的な学習の輪が広がっています。
- ◆ 市民の主体的な取り組みをいっそう促進するため、専門の知識や技能を持つ市民の活用など、指導者の充実・確保を進める必要があります。また、市民に身近な生涯学習の場を提供するため、振興センターの利用促進や、自治公民館等と連携した体制を整備する必要があります。

④ 市民にわかりやすい情報提供

—— 情報発信 ——

- ◆ 生涯学習を振興する上で、情報の提供はきわめて重要であることから、生涯学習情報紙「まなび情報」を年4回発行し全世帯へ配布しているほか、必要に応じて広報「はなまき」や市のホームページに掲載し、情報の提供に努めています。
- ◆ また、幼児から中学生までの子どもを対象とした情報紙「ゆうほう（遊報）」を発行し、行事やイベント、体験活動等のさまざまな情報を提供しています。
- ◆ 一方で、「学習活動をやってみたいと思っているが、どこで、どんなことをしているのかわからない」などの意見があり、情報紙等を充実するとともに、生涯学習カレンダーや生涯学習マップなど、市民にわかりやすい情報提供の仕方を工夫する必要があります。（生涯学習に関するワークショップから）
- ◆ また、生涯学習に関するさまざまな相談に対応できるよう、相談体制の充実を図る必要があります。

⑤ 社会の要請に応じた学習機会の充実

—— 環境学習 ——

- ◆ 学校や地域の団体が企画する環境保全に関する研修会、学習会、自然観察会などに環境学習推進員（環境マイスター）が出向き、市民の学習をサポートしています。より一層の活用のため、制度の周知が必要です。
- ◆ 水質保全の意識を高めるため、市内の小中学校児童生徒が河川に棲む水生生物を調査、観察し、身近な河川の水質状況を学習しています。
- ◆ 平成18年6月の市民アンケートの結果によると、自然環境を守る活動を行っている市民の割合は、資源回収60.3%、公衆衛生組合等の活動47.3%、地域の美化清掃活動31.7%、リサイクル活動27.4%となっています。
- ◆ 市民一人当たりの一般廃棄物排出量は年間181kgとなっており、県平均と同じレベルとなっていますが年々微増傾向にあります。
- ◆ このため、市民（各家庭）や事業者への3R啓発を通じ、ごみの減量や分別意識の徹底を図る必要があります。また、紙製容器等のリサイクル化を推進するとともに、レジ袋使用の削減を進める必要があります。
- ◆ また、温室効果ガスの削減を図るため、市民・事業者・行政が一体となって生活スタイルを見直すとともに、市民の省エネルギー意識を高めるなど、地球環境に配慮した行動が求められています。

—— 就業環境 ——

- ◆ 若者の就業形態として派遣社員、契約社員の比率が高くなっています。また、女性に関してはパート社員の比率が高い傾向にあります。
- ◆ 製造業においては、求人はあるものの若者が就きたい事務や技能職に関して十分な状況にないことから、就きたい仕事と就ける仕事に乖離が生じています。
- ◆ ものづくりの楽しさを若者に知ってもらうための就労意識の醸成が必要です。
- ◆ 求職者に対する技術者養成講座など、就業訓練の場の確保が求められています。

—— 国際・国内交流 ——

- ◆ 海外旅行が一般化し、国際交流が身近なものとなっている現状にあり、行政が行う国際交流事業は、民間事業との差別化が図られる必要性が高まっています。
- ◆ また、市民の外国語学習に関するニーズが高まっており、外国語教室の充実が求められています。さらに、市内に在住する外国人の増加に伴い、日本語学習の場が必要になっています。
- ◆ 本市では、アメリカ・ホットスプリングス市及びラットランド市、オーストリア・ベルンドルフ市と国際姉妹・友好都市提携を行い、中高生や市民団体等の相互交流が進んでいます。また、その他の地域間との交流事業も実施しています。
- ◆ 市民団体や個人が、姉妹都市等で文化的な特技や技能を披露または指導したり、主体的にテーマを設定し研修したりして市民交流を深める「国際姉妹都市等交流研修事業」を実施しています。これまでに、絵手紙やコーラス、演劇などのグループや団体が、本事業を活用して活動成果の発表や地元市民への指導・交流するなど、海外での幅広い生涯学習活動が展開されています。
- ◆ さらに、中高生徒の国際姉妹・友好都市、国内友好都市派遣と同都市生徒受入交流や、本市の伝統芸能「鹿踊り」や「神楽」団体の派遣、郷土食「わんこそば」の海外場所の開催などにより、市民レベルでの交流を深め、国際理解、多文化共生の推進に努めています。
- ◆ 国際感覚や広い視野を持つ人材の育成を推進するため、(財)花巻国際交流協会やホームステイ協会、グリーンツーリズム協議会等の団体と連携し、国際・国内交流のいっそうの推進が求められています。

—— 男女共同参画 ——

- ◆ 国や地方公共団体等の取り組みにより、男女共同参画に関する市民の意識は、年々高まっています。
- ◆ 一方で、男女の固定的な役割分担意識や労働の場における男女の格差、女

性の人権を著しく侵害する暴力の存在など、男女共同参画社会の実現に向けた課題が依然として見受けられることから、市民や団体のいっそうの理解を深めるため、効果的な意識啓発と多様な学習機会を提供する必要があります。

- ◆ また、市民参画・協働のまちづくりを推進するうえで、女性の積極的な参画が求められており、そのための人材育成に努める必要があります。

—— 青少年健全育成 ——

- ◆ 少子高齢化の進行、家庭環境の複雑化、地域の連帯感の希薄化、携帯電話等によるインターネットの普及などにより、青少年を取り巻く環境が大きく変化しています。
- ◆ 県の調査では、携帯電話を使用している青少年は中学生で約2割、高校生で約7割となっています。また平成18年中に全国で検挙した出会い系サイトに関係した事件は1,915件、1,387人が被害に遭っており、被害者の83%が18歳未満となっています。県内では10件の事件で10人が被害に遭っており、その7割が中高生となっています。
- ◆ 特に、中高生の携帯電話の使用に関しては、出会い系サイトへのアクセスによる事件・事故、電子掲示板やメール等で知らないうちに他人の心を傷つけたり、加害者になったりする場合など全国的に問題が大きくなっています。
- ◆ また、インターネット・オークション利用によるトラブルや、携帯電話の使用料金の高額化などが問題となっており、学校・家庭・地域が携帯電話の安全な利用等について学ぶ機会の充実が求められています。
- ◆ このことから、次代を担う青少年の健全育成を推進するためには、学校・家庭・地域が一体となって「地域の子どもは地域で守り育てる」という市民意識を高めていく必要があります。

⑥ 健康づくり・生涯スポーツの推進

—— 健康づくり ——

- ◆ 平成18年6月の「まちづくり市民アンケート」の結果によると、自分自身が健康であると考える市民の割合は63.7%になっています。また、健康増進のために食事や運動に気をつけている市民の割合は71.0%ですが、このうち運動に気をつけている人の割合は23.5%で食事に気をつけている人の半分の割合であり、運動している市民が少ない状況にあります。
- ◆ このため、市では健康福祉まつりやウォーキング大会の開催のほか、各地区を会場に健康相談や食生活改善講習会を年間約200回開催し、市民の健康づくりを推進しています。
- ◆ 本市の壮年期死亡の原因は、平成18年では「心臓病」「自殺」「がん」が多くなっており、生活習慣の改善やこころの健康づくりの普及が求められて

います。

- ◆ 本市の 65 歳以上の要介護者の認定割合は、平成 22 年には 20%に達すると予測されています。健康寿命の延伸を図るためには脳卒中の予防や転倒予防のため、青年期からの運動習慣や適切な食生活の確保が必要です。

—— スポーツ・レクリエーション ——

- ◆ 市民の自主的な生涯スポーツを推進するため、各地区にスポーツ指導員を配置するとともに、花巻市生涯スポーツ推進協議会を設置し、推進体制を整備しています。また、(財)花巻市体育協会及び花巻市体育指導委員協議会と連携し、各種スポーツの推進に取り組んでいます。
- ◆ さらに、(財)花巻市体育協会及び各競技団体との共催による市民体育祭や各種スポーツ教室の開催等により、市民のスポーツ活動が定着してきています。
- ◆ 平成 19 年度の体力・運動能力調査の結果をみると、花巻管内（花巻市、遠野市）の小学校では男子は 48 項目中の 67%、女子では 77%が全国及び県平均を上回っています。また、中学校では男子が 24 項目中の 79%、女子は 83%が全国及び県平均を上回っています。
- ◆ 児童生徒の競技スポーツにおいては、陸上競技やスポーツ少年団競技などで県大会の上位入賞を果たすとともに、全国大会でも活躍する選手・チームがあり高いレベルにあります。
- ◆ 地域における生涯スポーツを振興するため、体育指導委員及び地区スポーツ推進協議会の自主的活動を積極的に推進する必要があります。また、体育指導委員協議会と生涯スポーツ推進協議会の連携をいっそう密にしながら、生涯スポーツが市民一人ひとりに浸透するような工夫が必要です。
- ◆ また、市民が身近にスポーツ・レクリエーションに親しむことができるよう、スポーツに関する情報を提供するための体制整備を行う必要があります。
- ◆ 職場や地域におけるスポーツ・レクリエーション活動を推進するため、県のスポーツリーダーバンク登録指導者を有効に活用するとともに、指導者の発掘・養成が求められています。

⑦ 芸術文化の振興

—— 芸術文化活動 ——

- ◆ 生涯学園都市会館では、陶芸、書道、絵画など団体やグループによる芸術文化活動が盛んに行われています。また、東和地域の「街かど美術館」、大迫地域の「大迫宿場の雛まつり」など、地域の特性を生かした市民の主体的な事業が展開されています。
- ◆ また、市民が積極的に芸術文化活動に参加できるよう、市民芸術祭を開催

しているほか、地域住民の芸術文化の発表の場として振興センターや自治公民館を会場に文化祭等を開催している地区があります。

- ◆ 市民がより豊かな、生きがいのある人生を送るために自主的に行う芸術文化活動の振興が求められています。このため、文化会館の自主企画等の充実により、より多くの市民に芸術文化に触れる機会を提供する必要があります。
- ◆ 本市は宮沢賢治、萬鉄五郎など多くの先人を輩出しており、その偉業を顕彰し全国へ情報発信するためのいっそうの工夫が必要です。また、各記念館等の入館者は減少傾向にあることから、相互の連携を図りながら集客力アップのための事業展開が求められています。

—— 伝統芸能・文化財 ——

- ◆ 本市には、長い間伝承されてきた「神楽」や「鹿踊り」など特色ある郷土芸能が数多くあり、地域の特色を生かした「郷土芸能祭」など発表の機会を設けています。
- ◆ 地域に伝わる郷土芸能等に積極的に取り組んでいる地域があります。学校においても、教育振興運動実践区や文化祭行事等の場でその成果を発表するなど、地域とのつながりを深めるとともに、伝統文化の伝承、地域の良さを学ぶ学習機会の創出により、子供たちが郷土への愛着心を育むとともに、生きる力を身につける良い機会となっています。
- ◆ さらに、県内でも有数の有形・無形文化財を有しており、これらの文化財を市民共有の財産として後世に引き継ぐための施策が求められています。
- ◆ 各種文化財の保護と有効活用が課題であり、特に郷土芸能等の後継者不足が懸念されています。このため、小中学生はもとより卒業後の次世代につながる若者・成人の参加促進は、健全育成、地域づくりの面からも大事な課題となっています。
- ◆ 埋蔵文化財の調査、発掘、収蔵等にかかる一連の体制を整備する必要があります。

2 生涯学習への意識と取り組み状況（市民意識調査結果から）

平成19年7月、市民3,000人を対象に「生涯学習に関する市民意識調査」を行いました（回収率は31.5%）。

この意識調査の結果をみると、生涯学習についての周知度は高いものの、生涯学習の意味や内容について理解度が低いことや、学習活動等に取り組みにくい要因として、仕事や家事などで時間がとれないこと、きっかけがないこと、情報が不足していることなどが課題として示されています。

岩手県教育委員会が行った平成10年度の調査結果と一部を比較しながら、市民の生涯学習への意識や取り組み状況を概観します。

◇ 調査の集計結果

（1）地域別回答者数

- ・花巻 636人（67.2%）
- ・大迫 62人（6.6%）
- ・石鳥谷 136人（14.4%）
- ・東和 107人（11.3%）
- ・不明 5人（0.5%）

※ 地域別回答割合は、平成19年度7月末住民登録人口（外国人登録を除く）104,906人の地域別構成割合に近い数値となっている

（2）A：性別・年代別回収率

年 代	回収率(%)			年 代	回収率(%)		
	全体	男性	女性		全体	男性	女性
20代	18.0	16.8	19.2	50代	41.4	36.4	46.4
30代	25.6	17.2	34.0	60代	42.0	44.0	39.6
40代	33.4	23.2	43.2	70歳以上	28.2	27.6	28.4

B：年代別回答者数及び全回答者に占める割合

年 代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	不 明
回答者数	90人	128人	167人	207人	210人	141人	3人
構成割合	9.5%	13.5%	17.7%	21.9%	22.2%	16.7%	0.3%

※ 50代、60代の回収率は40%を超えている。20代は18.0%ともっとも少ない。

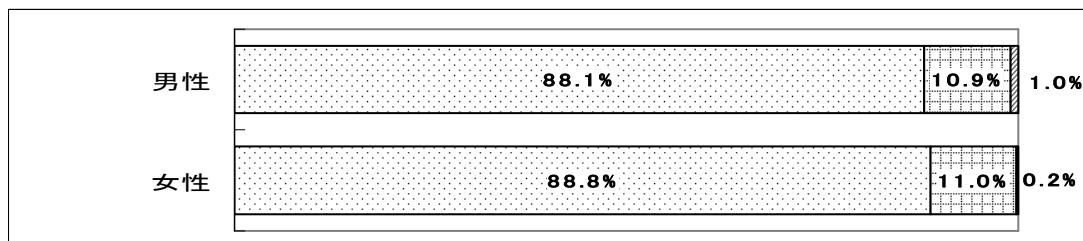
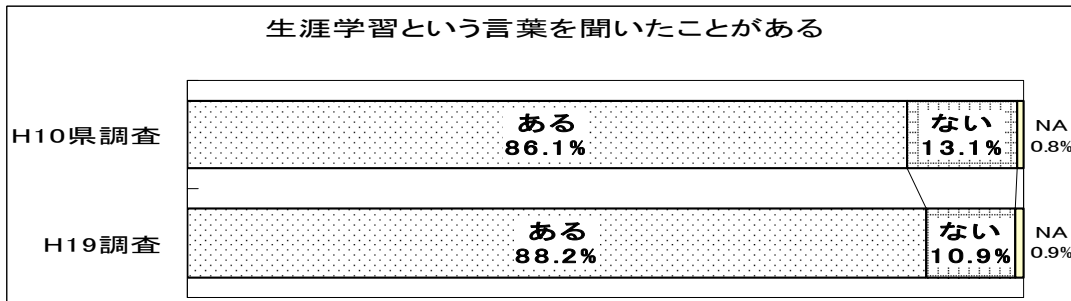
（3）職業

- ・自営業 15.9%
- ・会社員、団体職員、公務員ほか 38.2%
- ・無職 31.0%
- ・その他 14.3%
- ・無回答 0.6%

1 「生涯学習」のことばの周知度

問5 あなたは、生涯学習ということばを聞いたことがありますか。

- ・聞いたことがある 88.2%
- ・聞いたことがない 10.9%
- ・無回答 0.9%



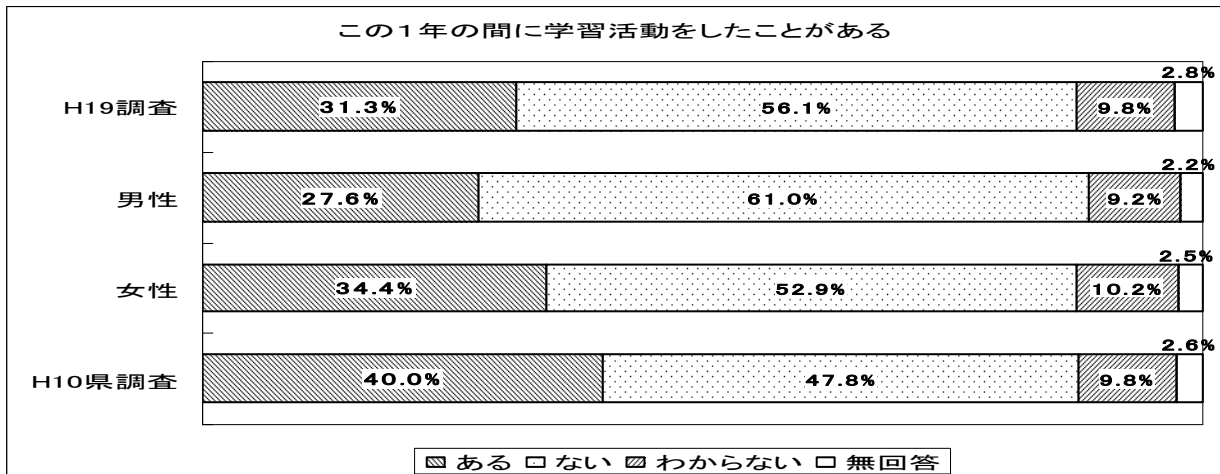
- ※ 周知度は、平成10年度の県の調査より2.1ポイント高くなっている。
- ※ 年代別では、50代の周知度が一番高く96.1%、20代は76.7%と周知度が低くなっている。
- ※ 性別年代別では、低い順に20代の男性が64.3%、70代女性が74.3%、30代男性が83.7%となっている。

2 生涯学習の実態

(1) 学習活動の有無

問6 あなたは、この1年間くらいの間には生涯学習をしたことがありますか。

- ・生涯学習をしたことがある 31.3%
- ・特にそういうことはしていない 56.1%
- ・わからない 9.8%



区分	ある	ない	わからない	無回答
20代男性	28.6%	47.6%	21.4%	2.4%
女性	37.5%	39.6%	22.9%	0.0%
30代男性	23.3%	62.8%	14.0%	0.0%
女性	17.6%	71.8%	9.4%	1.2%
40代男性	25.9%	58.6%	13.8%	1.7%
女性	28.7%	63.0%	8.3%	0.0%
50代男性	26.4%	68.1%	3.3%	2.2%
女性	37.9%	55.2%	2.6%	4.3%
60代男性	32.7%	61.8%	3.6%	1.8%
女性	49.5%	38.4%	10.1%	2.0%
70以上男性	24.6%	59.4%	11.6%	4.3%
女性	33.8%	40.8%	18.3%	7.0%

※ 「生涯学習をしたことがある」は、県の調査より8.7ポイント低い。

※ 性別では、女性が男性を6.8ポイント上回っている。

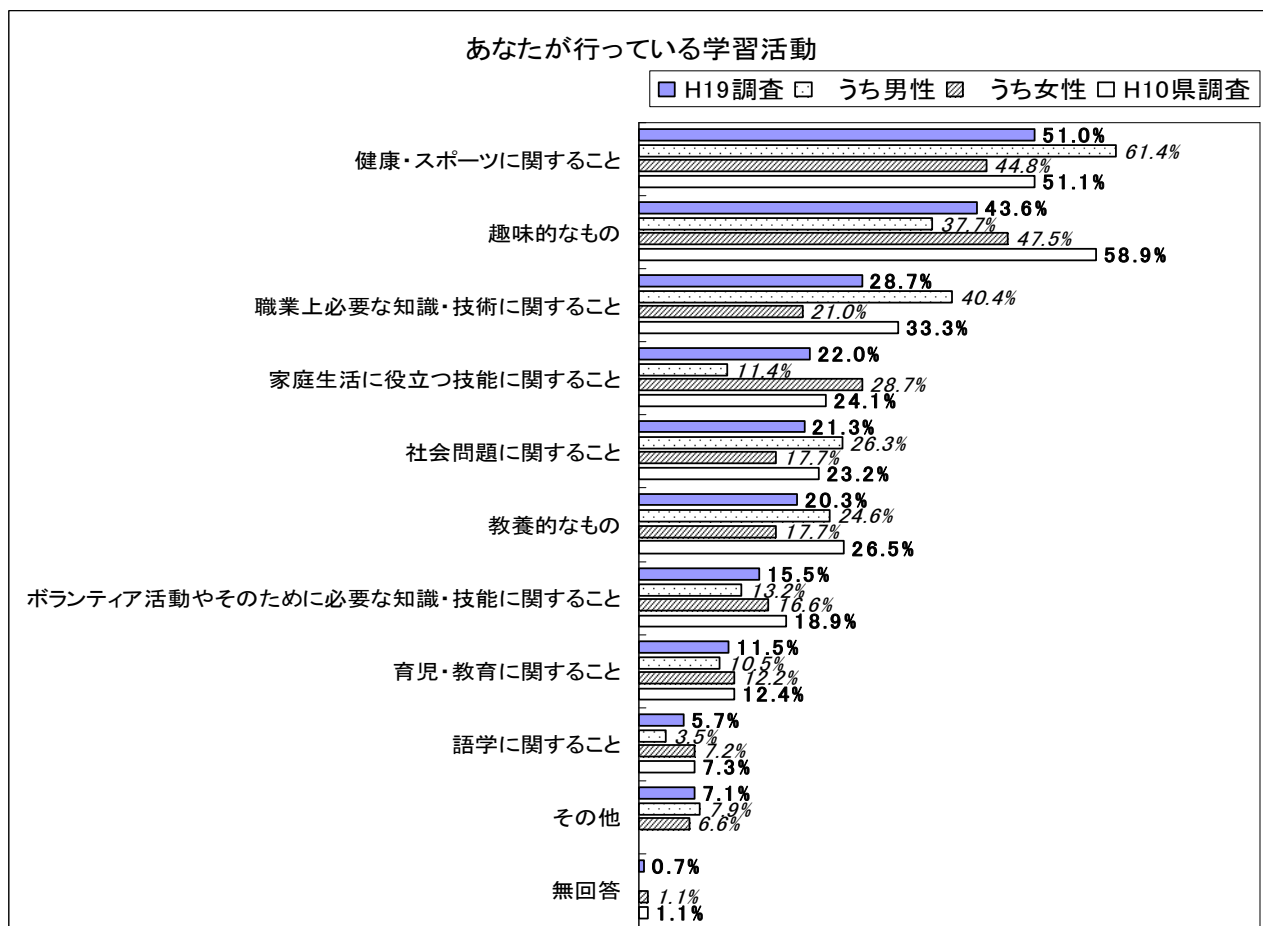
※ 年代別では、60代女性の49.5%、50代女性の37.9%、20代女性の37.5%の順となっている。

※ 「したことがない」では、30代女性が71.8%、50代男性が68.1%、40代女性が63.0%の順に割合が高くなっている。

(2) 学習活動の内容（複数回答）

問6-1) あなたが行っている学習活動の内容は何ですか。

- 1位・健康、スポーツに関すること 51.0%
- 2位・趣味的なもの 43.6%
- 3位・職業上必要な知識・技能 28.7%

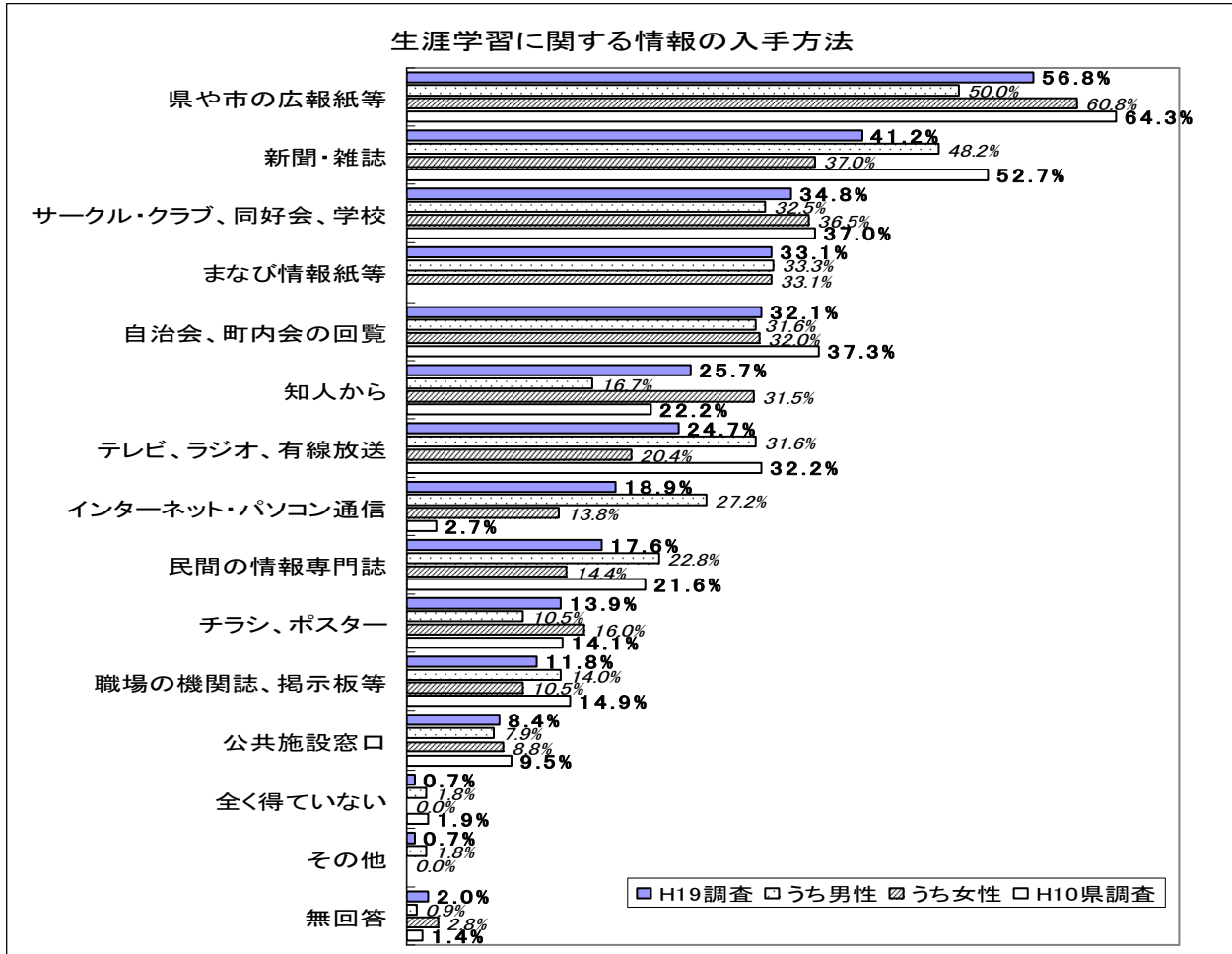


- ※ 県の調査の1位は「趣味的なもの」となっているが、今回の調査では「健康・スポーツに関するもの」が1位となっている。
- ※ 性別では、男性は「健康・スポーツに関するもの」、女性は「趣味的なもの」がそれぞれ1位となっている。
- ※ 20代、30代は「職業上必要な知識・技能」が第1位に、40代以上は「健康・スポーツに関すること」が第1位となっている。
- ※ 「家庭生活に役立つもの」は女性が3位、男性が4位、「職業上必要な知識・技能」は女性が4位、男性が2位となっている。

(3) 学習情報の入手方法 (複数回答)

問6-(2) あなたは、生涯学習に関する情報を主に何から得ていますか。

- 1位・県や市の広報紙、パンフレット 56.8%
- 2位・新聞、雑誌 41.2%
- 3位・サークル、同好会、クラブ等 34.8%



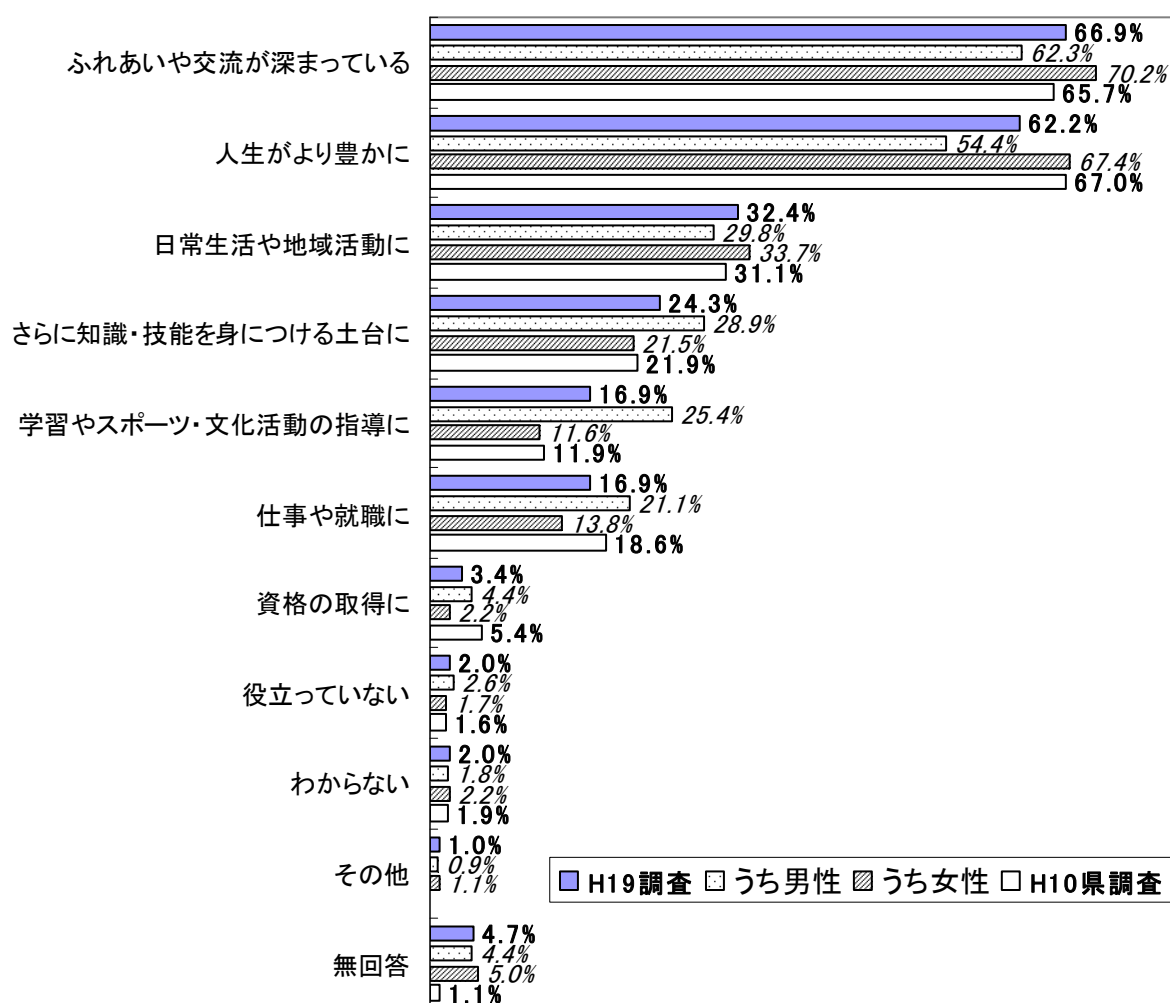
- ※ 県の調査項目にはないが、生涯学習情報紙「まなび情報」や「ゆうほう」から情報を得ている割合は33%を占めている。
- ※ インターネット、パソコンを利用して情報を入手している割合は、県の調査では2.7%であったが、今回は18.8%と大幅にのびている。
- ※ 「全く得ていない」は県の調査では1.9%あったが、今回調査では約半分の0.7%に減少している

(4) 学習活動の成果 (複数回答)

問6-(3) あなたにとって、生涯学習で身につけた知識や技能、経験がどのように役立っていますか。

- 1位・ふれあいや交流が深まっている 66.9%
- 2位・自分の人生がより豊かになった 62.2%
- 3位・日常生活や地域活動に役立つ 32.4%

学習の成果がどのように役立っているか



※ 上位の3項目は県の調査と同様の傾向にある。

※ 性別では男女ともに同じ傾向であり、「ふれあいや交流が深まった」「自分の人生が豊かに」が高い割合となっている。

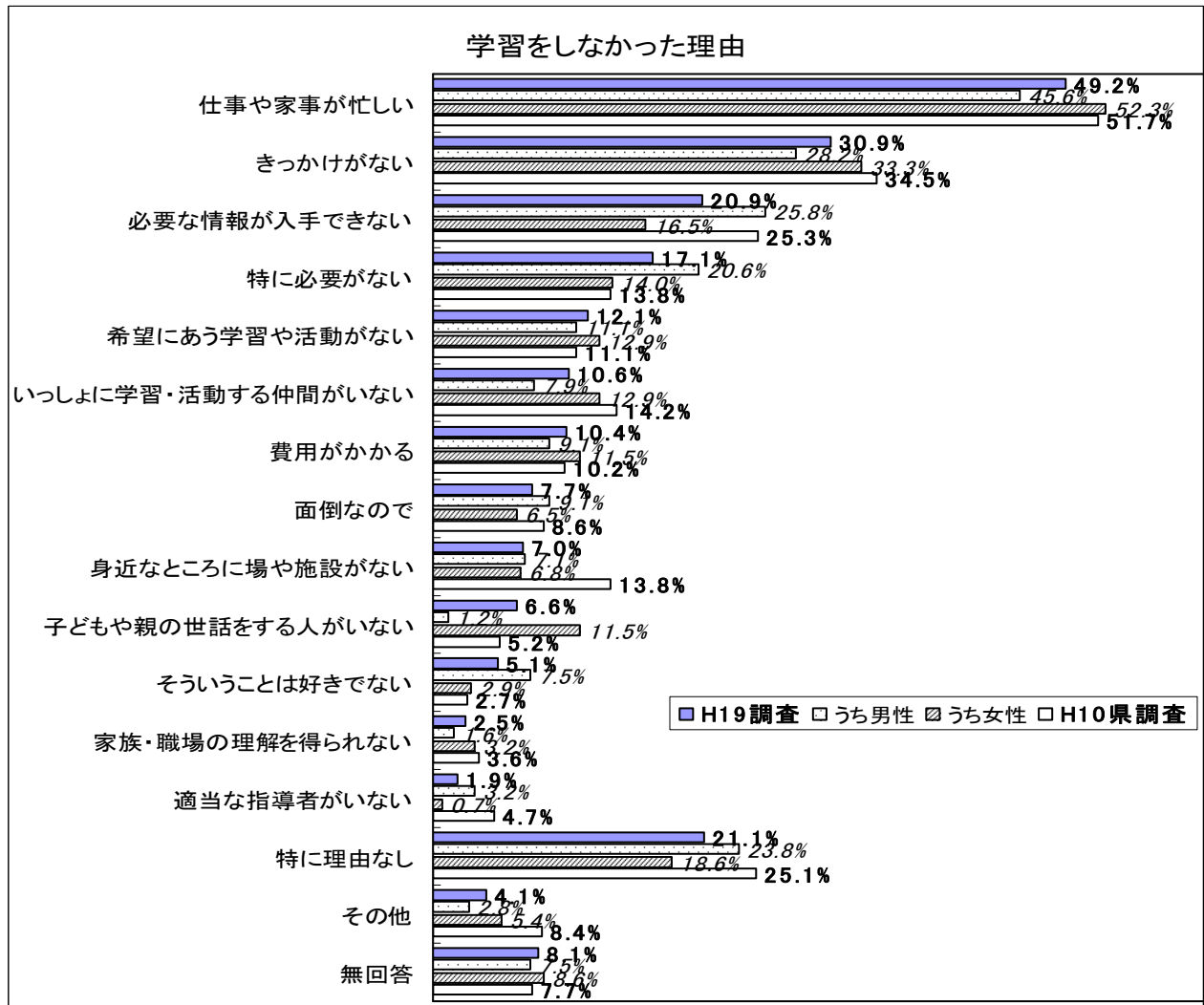
※ 「学習やスポーツ、文化活動の指導に役立っている」が、県の調査より5ポイント増加している。

(5) 学習をしなかった理由（複数回答）

問6-(4) (問6で「特にそういうことはしていない」と答えた方へ)

それは、どうしてですか。

- 1位・仕事や家庭が忙しくて時間がない 49.2%
- 2位・きっかけがつかめない 30.9%
- 3位・特に理由がない 20.9%



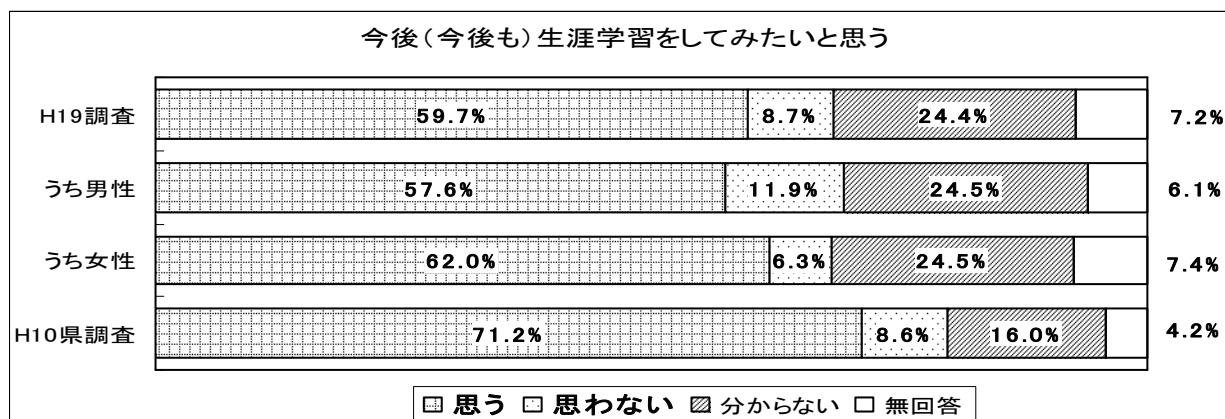
- ※ 「仕事や家事が忙しく時間がない」が、今回の調査や県調査で1位となっている。性別では男性が45.6%、女性が52.3%となっている。
- ※ 「身近なところに場や施設がない」は、今回調査で7.0%となっており、県調査より約7ポイント減少している。
- ※ 「特に理由なし」は県調査より4ポイント減ったものの、高い割合にある。特に今回の調査では、20代及び70歳以上で割合が高い。
- ※ 「必要な情報が入手できない」「いっしょに学習する仲間がない」は県調査より約4ポイント減少しているが、「特に必要がない」は3.3ポイント増えている。

3 生涯学習に対する今後の意向

(1) 学習への意欲

問7 あなたは、今後（今後も）生涯学習をしてみたいと思いますか。

- ・してみたいと思う 59.7%
- ・してみたいと思わない 8.7%
- ・わからない 24.4%



区分	20代		30代		40代		50代		60代		70歳以上	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
思う	40.5%	64.6%	55.8%	68.2%	60.3%	64.8%	64.8%	65.5%	65.5%	61.6%	44.9%	42.3%
思わない	11.9%	2.1%	9.3%	2.4%	3.4%	3.7%	15.4%	4.3%	7.3%	11.1%	23.2%	14.1%
わからない	35.7%	31.3%	34.9%	28.2%	34.5%	26.9%	17.6%	26.7%	20.0%	21.2%	18.8%	12.7%
無回答	11.9%	2.1%	0.0%	1.2%	1.7%	4.6%	2.2%	3.4%	7.3%	6.1%	13.0%	31.0%

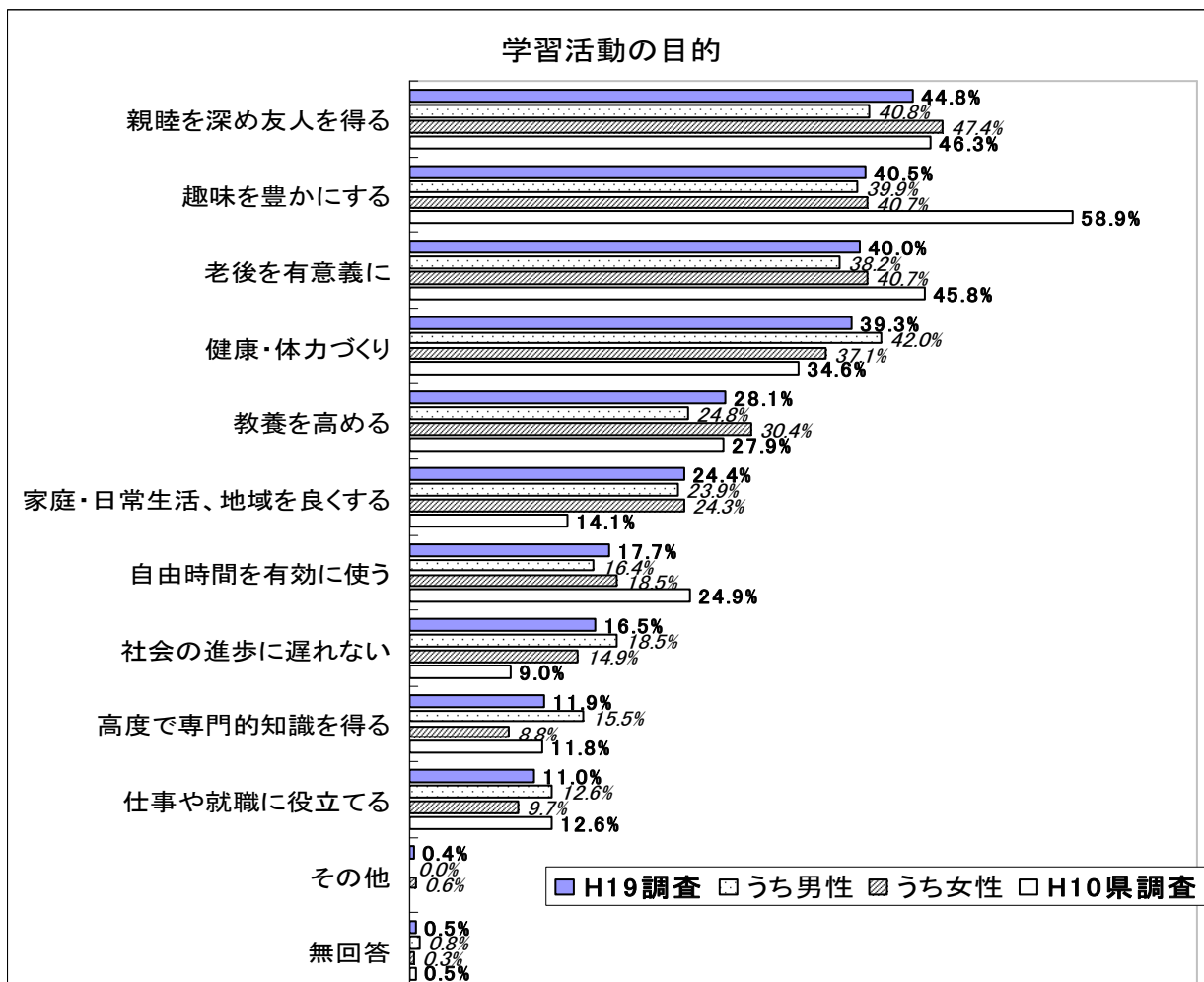
- ※ 今回の調査で「思う」は、県調査より11.4ポイント減少。「思わない」はほぼ同数、「わからない」が8.4ポイント増加している。
- ※ 「思う」は性別では女性が男性より4.4ポイント多くなっている。また年代別性別では30代の女性が68.2%でもっとも多く、次いで60代の男性と50代の女性が65.5%となっている。
- ※ 「思わない」は70歳以上の男性が23.2%ともっとも多く、次いで50代の男性の15.4%、70歳以上の女性の14.1%となっている。

(2) 学習活動の目的(複数回答)

問7-(1) (問7で「してみたいと思う」と答えた方)

今後(も)、生涯学習をしてみたいと思う理由はなんですか。

- 1位・親睦を深めたり友人を得たりする 44.8%
- 2位・老後の人生を有意義にする 40.5%
- 3位・趣味を豊かにする 40.0%

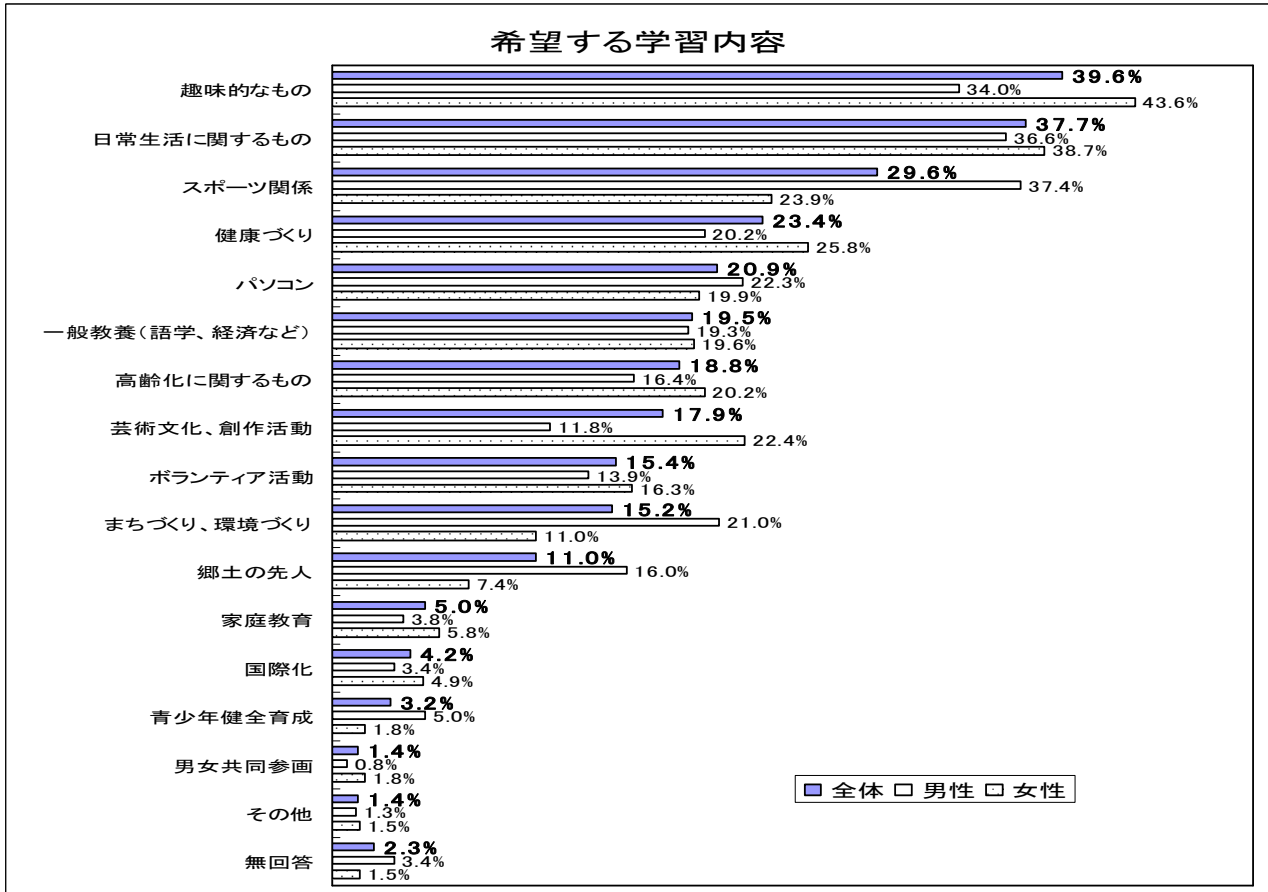


- ※ 県調査では「趣味を豊かにする」が1位であったが、今回調査では「親睦を深めたり友人を得たりする」が1位となっている。
- ※ 「家庭、日常生活、地域を良くする」「社会の進歩に遅れない」「健康・体力づくり」が県調査より増加している。
- ※ 年代別では、20代と40代で「趣味を豊かに」、30代で「教養を高める」、50代～70歳以上で「老後を有意義に」が1位となっている。
- ※ 性別では、男性は「健康・体力づくり」、女性は「親睦を深めたり友人を得たりする」が1位となっている

(3) 希望する学習内容（複数回答）

問7-(2) どのような学習や活動をしてみたいと思いますか。

- 1位・趣味（書道、絵手紙など）的なもの 39.6%
- 2位・日常生活（料理、パソコン、日曜大工など） 37.7%
- 3位・スポーツ関係（野球、ゴルフ、水泳など） 29.6%



参考：H10岩手県調査（県調査より選択肢が少ないため参考数値）

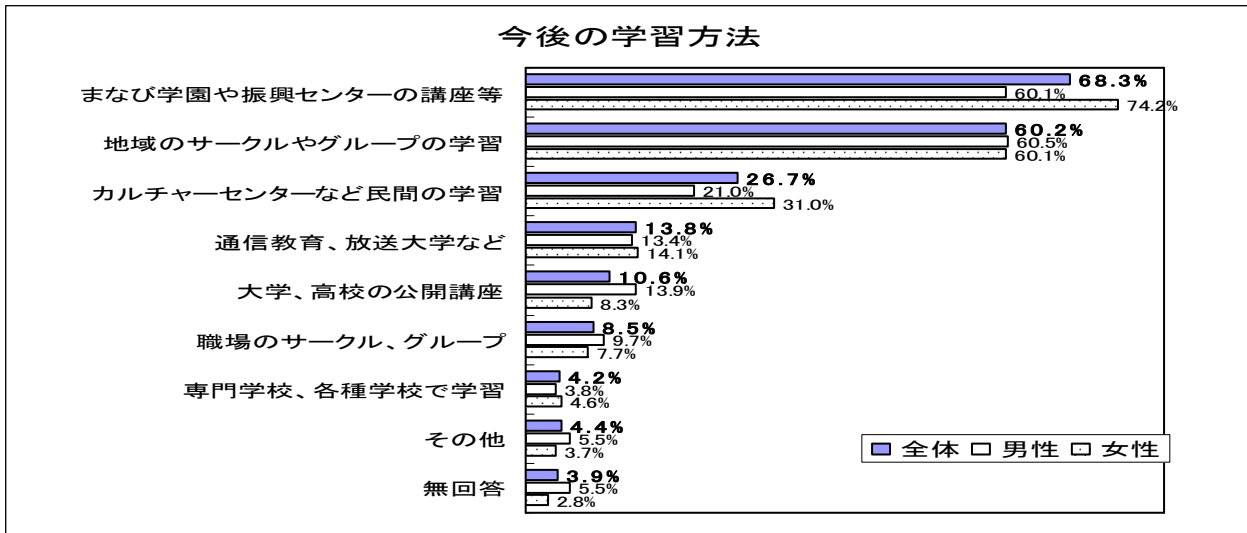
- 1位・園芸（家庭園芸・盆栽など） 25.6%
- 2位・生活技術（ワープロ、習字） 21.7%
- 3位・地域活動・ボランティア 16.5%

- ※ 男性は「スポーツ」「日常生活」「趣味的なもの」、女性は「趣味的なもの」「日常生活」「健康づくり」の順に多くなっている。
- ※ パソコン操作など、パソコンに関する学習への希望は20.9%と高い方になっている。
- ※ 「趣味的なもの」は40代～60代、「日常生活」は30代、40代、60代で多くなっている。20代は「スポーツ関係」、70歳以上は「高齢化に関するもの」が多くなっている。
- ※ 家庭教育、青少年健全育成、男女共同参画については、県調査・今回調査ともに希望が少なくなっている。

(4) 希望する学習方法（複数回答）

問7-③ あなたがしてみたいと思う学習や活動を、今後どのような方法で取り組んでみたいと思いますか。

- 1位・まなび学園や振興センターが主催する講座等 68.3%
- 2位・地域のサークル・グループの学習に参加 60.2%
- 3位・カルチャーセンターなど民間の教室 26.7%



参考：H10岩手県調査（県調査より選択肢が少ないため参考数値）

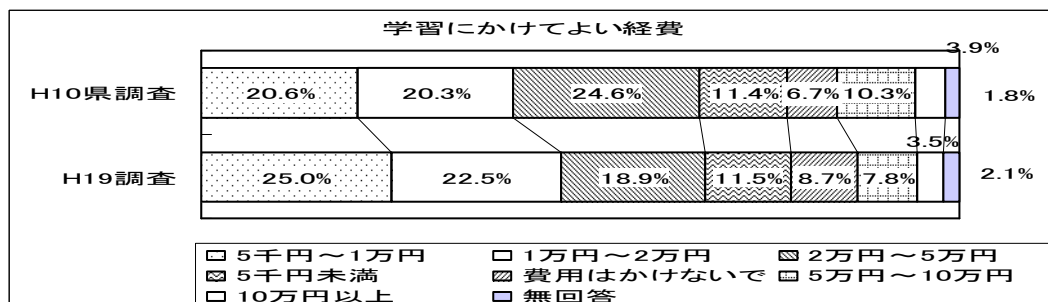
- 1位・公民館等が行う講座 63.0%
- 2位・地域のサークル等に参加 60.5%
- 3位・本、テレビ、ビデオ等を利用 40.2%

- ※ 「まなび学園や振興センター（旧公民館）が主催する講座への参加」がもっとも多い。
- ※ 県の調査でも「公民館が行う講座・教室への参加」がもっとも多い。
- ※ 男性では「地位のサークル」「まなび学園の講座」がほぼ同数となっている。女性では「まなび学園の講座」がもっとも多く、次に14.1%低い「地域のサークル」の順となっている。

（5）学習活動の経費

問7-(4) あなたは、学習や活動をするために、年間どれくらいの経費ならかけてよいと考えますか。

- 1位・5千円～1万円ぐらい 25.0%
- 2位・1万円～2万円ぐらい 22.5%
- 3位・2万円～5万円ぐらい 18.9%



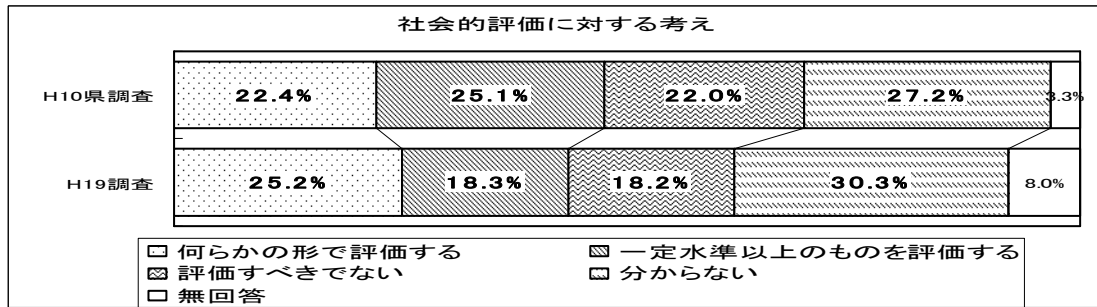
- ※ 県調査では「2万円～5万円が」が1位となっていたが、今回調査では「5千円～1万円」が1位となっている。

4 生涯学習の成果に対する評価

(1) 社会的評価に対する考え

問8 あなたは、人々が生涯学習を通して身につけた知識や技能などを社会的に評価することについてどう思いますか。

- 1位・わからない 30.3%
- 2位・何らかの形で社会的に評価するのが望ましい 25.2%
- 3位・一定水準以上のものを評価する 18.2%



区分	20代		30代		40代		50代		60代		70歳以上	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
何らかの形で評価	31.0%	35.4%	32.6%	31.8%	32.8%	19.4%	28.6%	21.6%	23.6%	22.2%	20.3%	18.3%
一定水準以上を評価	23.8%	22.9%	20.9%	31.8%	15.5%	24.1%	16.5%	20.7%	16.4%	13.1%	15.9%	0.0%
評価すべきでない	11.9%	12.5%	23.3%	16.5%	22.4%	13.0%	26.4%	19.8%	20.9%	17.2%	20.3%	12.7%
わからない	28.6%	25.0%	18.6%	16.5%	24.1%	39.8%	23.1%	32.8%	30.0%	41.4%	33.3%	38.0%
無回答	4.8%	4.2%	4.7%	3.5%	5.2%	3.7%	5.5%	5.2%	9.1%	6.1%	10.1%	31.0%

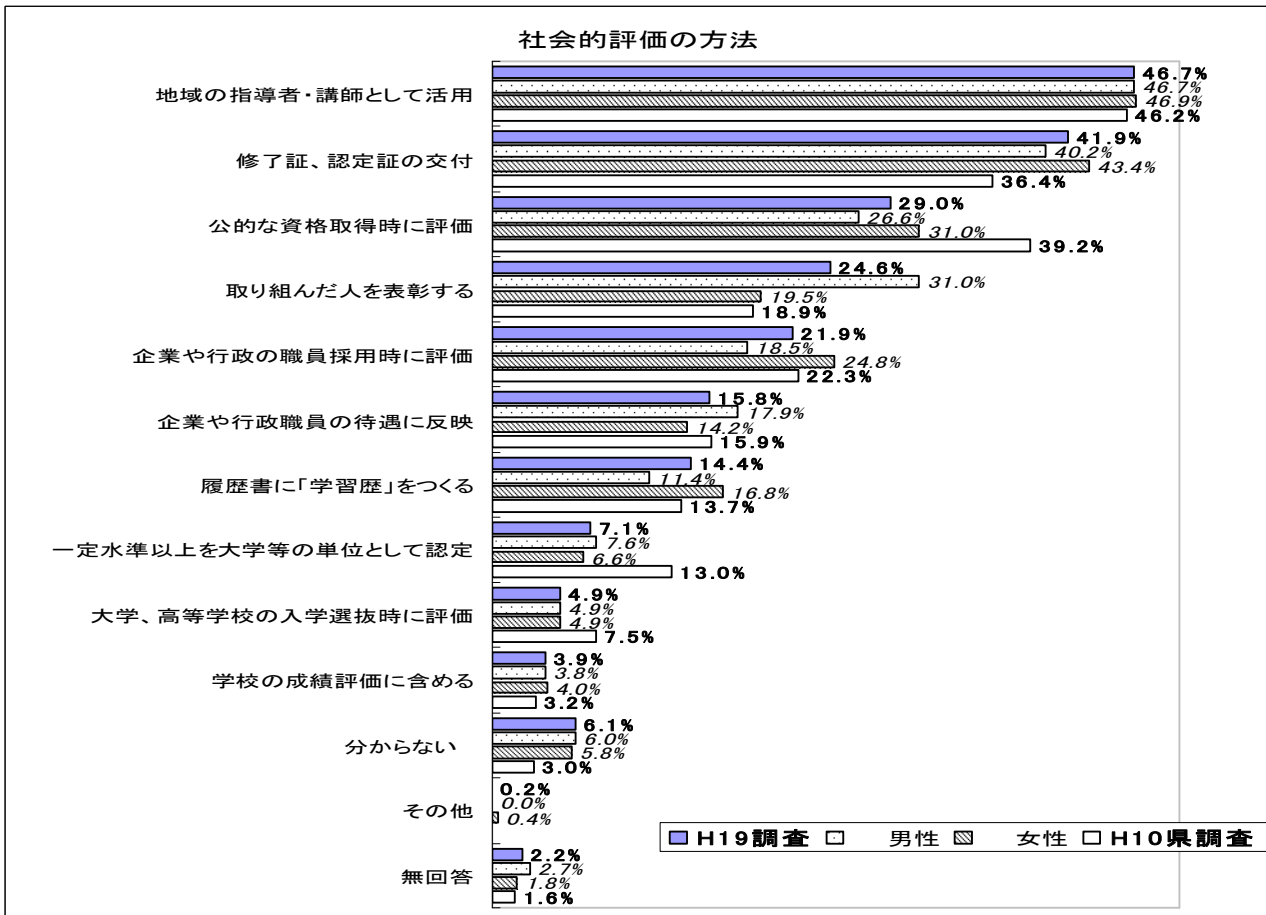
※ 評価について「わからない」がもっとも多く30.3%となっており、県調査より3.1ポイント多くなっている。

※ 「何らかの形で評価すべき」と「一定水準以上のものを評価する」を合わせた割合（評価するのがよい）は43.5%であり、県調査のそれより4.0ポイント低くなっている。一方で「評価すべきでない」とする考えは18.2%であり、県調査より3.8ポイント低くなっている。

(2) 社会的評価の方法 (複数回答)

問8-(1) (問8で「何らかの形で…」 「一定水準以上…」とお答えした方へ)
 あなたは、その評価はどのような形で行うのがよいと思いますか。

- 1位・地域の指導者や講師として活用する 46.7%
- 2位・修了証、認定証を交付する 41.9%
- 3位・公的な資格の取得に当たって評価する 29.0%

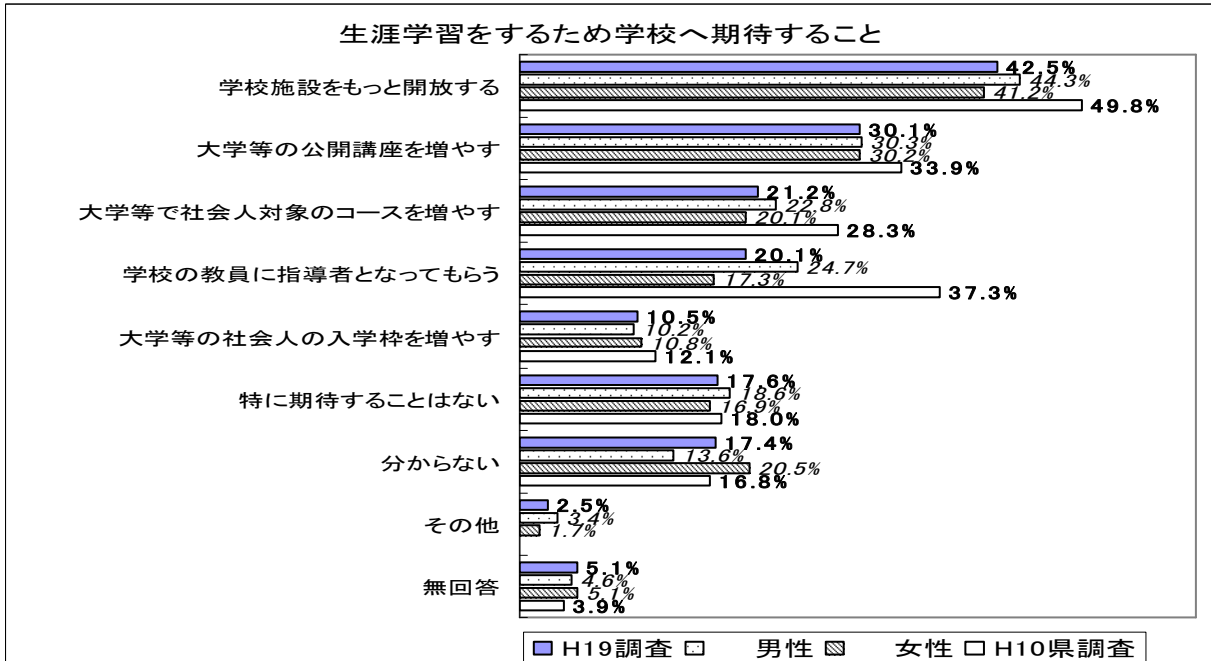


- ※ 「優れた人を、地域の指導者や講師として活用する」が46.7%と最も多く、県の調査とほぼ同じ割合となっている。
- ※ 「修了証や認定書の交付する」は41.9%となっており、県調査より5.5ポイント多くなっているが、「公的な資格取得時に評価する」は県調査より10.2ポイント少なくなっている。
- ※ 「取り組んだ人を表彰する」は5.7ポイント増加し、「大学等の単位として認定する」は5.9ポイント減少している。

5 生涯学習のための学校への期待（複数回答）

問9 生涯学習をするため、学校にどのようなことを期待しますか。

- 1位・学校施設を地域住民にもっと開放する 42.5%
- 2位・大学等での公開講座を増やす 30.1%
- 3位・大学等で社会人対象の科目、コースを増やす 21.2%

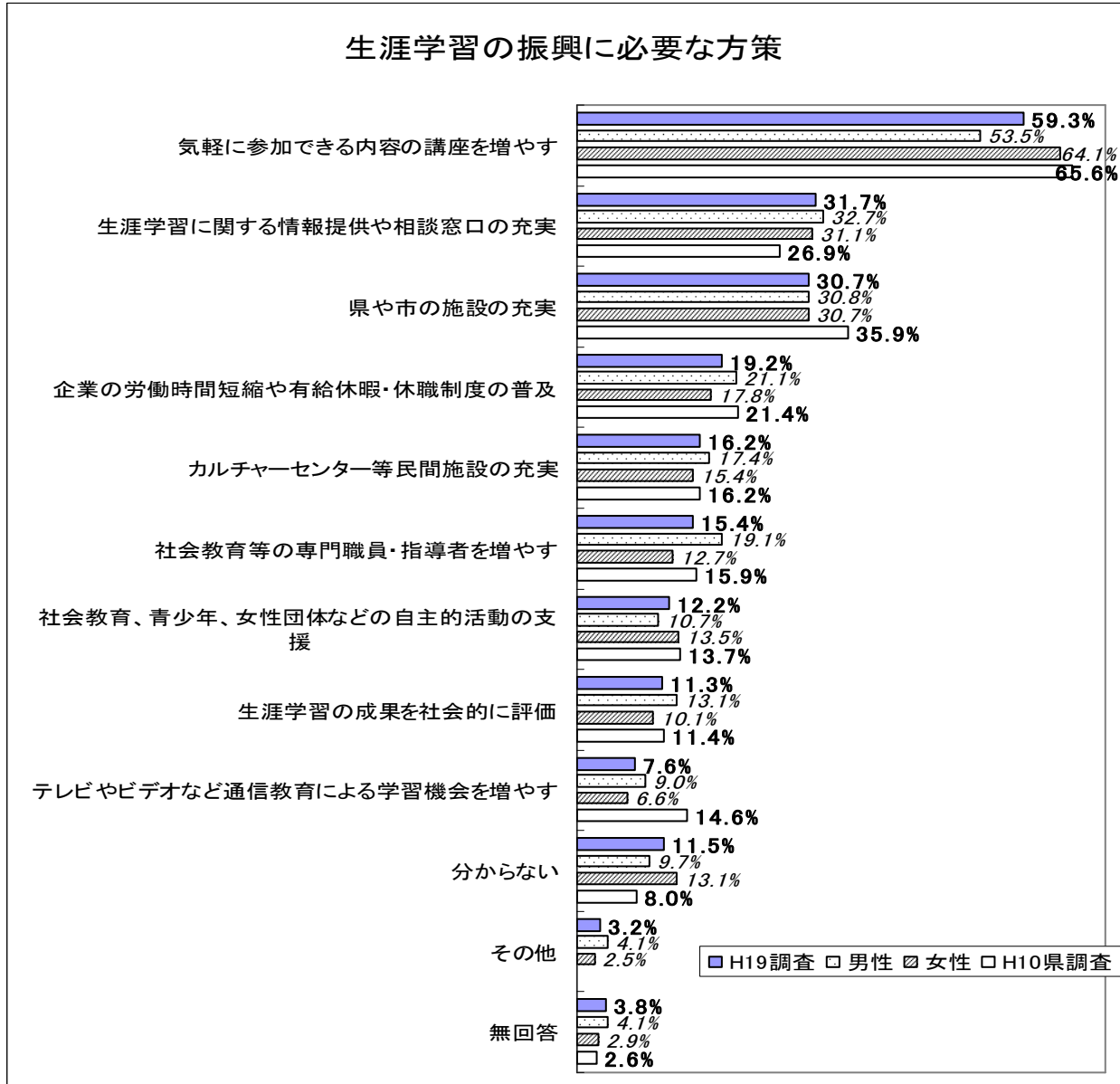


- ※ 「学校の施設をもっと地域に開放する」は42.5%であり、県調査より割合は少ないが1位となっている
- ※ 「学校の教員に講座等の指導者になってもらう」は20.1%であり、県調査の37.3%から大幅に減少している。
- ※ 「特に期待することはない」は17.6%であり、県調査とほぼ同じ割合となっている。

6 生涯学習振興への要望（複数回答）

問10 あなたは、人々の生涯学習をもっと盛んにしていくためには、今後どのようなことが大切だと思いますか。

- 1位・誰でも気軽に参加できる内容の講座等を増やす 59.3%
- 2位・生涯学習に関する情報提供、相談窓口の充実 31.7%
- 3位・県、市の生涯学習関係施設を充実させる 30.7%

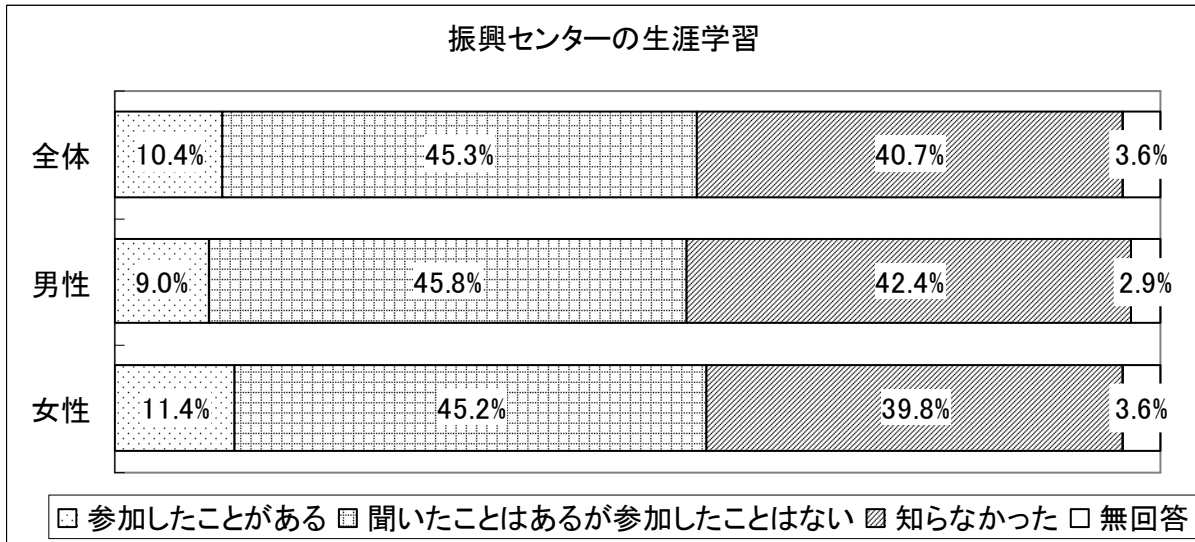


- ※ 県調査及び今回調査ともに上位3項目は同じであるが、生涯学習に関する情報提供や相談窓口の充実に対する割合が増えている。
- ※ 「テレビやビデオの活用、通信教育による学習機会を増やす」は、県調査の約半分の割合となっている。
- ※ 「労働時間短縮や自主的な学習等のための有給休暇等制度の普及」は県調査より約1ポイント減少している。

7 振興センターにおける生涯学習への参加

問11 今年度から市では、各地区に振興センターを設置（26カ所）し、各種の生涯学習事業を実施していますが、あなたはこれまでに参加したことはありますか。

- ・ 参加したことがある 10.4%
- ・ 聞いたことはあるが、参加したことはない 45.3%
- ・ 知らなかった 40.7%
- ・ 無回答 3.6%



年代別

区分	参加したことがある		聞いたことはあるが参加したことはない		知らなかった		無回答	
20代	1人	1.1%	24人	26.7%	64人	71.1%	1人	1.1%
30代	1人	0.8%	49人	38.3%	74人	57.8%	4人	3.1%
40代	11人	6.6%	80人	47.9%	76人	45.5%	0人	0.0%
50代	17人	8.2%	109人	52.7%	77人	37.2%	4人	1.9%
60代	40人	19.0%	109人	51.9%	57人	27.1%	4人	1.9%
70歳以上	28人	20.0%	57人	40.7%	37人	26.4%	19人	13.5%
不明			1人	33.3%			2人	66.7%
合計	98人	10.4%	429人	45.4%	385人	40.7%	34人	3.6%

※ 「参加したことがある」は10.4%と低くなっている。

※ 60代及び70歳以上で「参加したことがある」が高くなっている。

※ 「参加したことがある」と「聞いたことはあるが参加したことはない」を合計した〔振興センターの生涯学習事業の周知度〕は55.8%となっている。

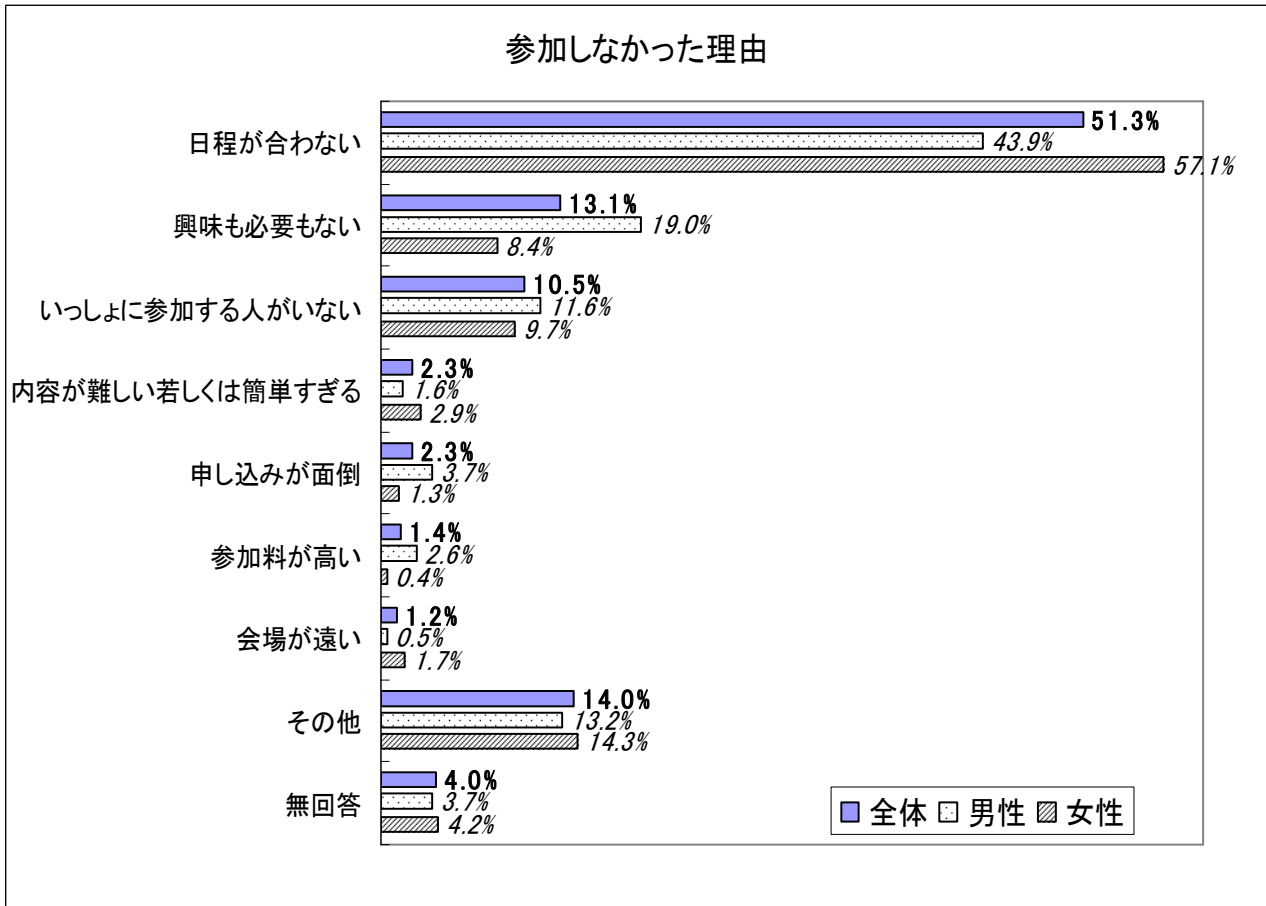
※ 「知らなかった」割合は20代で70%を超えており、そのうち男性は81%、女性は62.5%となっている。

8 振興センターの生涯学習に参加しなかった理由

問12 (問11で「聞いたことはあるが、参加したことはない」と答えた方)

それは、どんな理由でしたか。

1位・日程があわない	51.3%
2位・興味も必要もない	13.1%
3位・いっしょに参加する人がいない	10.5%



※ 「日程があわない」が1位であり半数を超えている。問6-4でも「仕事や家事が忙しく時間がない」が1位となっている。

※ 「興味も必要もない」は2位となっている。問6-4では「特に必要がない」は5位となっている。

生涯学習懇談会の意見等（ワークショップから）

平成19年8月21日から9月3日にかけて、市内に26ある振興センターごとに生涯学習懇談会を開催し、ワークショップ方式により生涯学習の課題と現状、それを解決するための方策を検討しました。

生涯学習を進める上で気になっているものとして、「学習メニューが不足している、内容に工夫が必要だ」や「情報が不足している、発信方法に改善が必要だ」、「参加者が固定化し、若い世代の参加が少ない」など多くの課題が指摘されました。また、「生涯学習そのものの意味や必要性がよくわからない」とか「生涯学習に魅力がない」とする声も寄せられました。

さらに、学習機会について「市中央部に比べて旧町地域の学習機会や講座・メニューが少ない」、「交通の便が整っていないため参加したくても困難」などの課題が指摘されています。

生涯学習に関するワークショップ から課題と解決策を探る (H19.8.21~9.3)

学習メニューの不足・内容の改善等が必要だ
<ul style="list-style-type: none"> ○学習のメニューが少ない（中心部と地域とで差がある、運動関係、技能習得、実学がないなど） ○ニーズにあったメニューが少ない ○学習メニューに工夫が足りない（年代別、レベル） ○講師陣が不足している（毎年同じ講師、趣味的なものは多いが実用向きは少ない） ○フィールドワークの機会が少ない

解決策

情報が不足・発信方法に改善が必要だ
<ul style="list-style-type: none"> ○情報が少ない（回数、周知方法を工夫、地域に行き届かない、学習メニュー情報、活動状況） ○広報・PRが足りない ○広報紙の字が小さくて読みにくい ○体育施設の情報が無い ○お知らせの仕方がわからない ○生涯学習としてどんなものがあるかわからない

解決策

参加者が固定化し、減少している
<ul style="list-style-type: none"> ○参加者（顔ぶれ）が固定化（若い人がいない、所属団体の老化） ○参加者の偏りと高齢化している ○少子化で参加者が少ない ○参加意識が少ない ○地域行事への参加者が少ない ○男性は受講しようとする意識が低い ○対象者が固定されている ○サークルなどへ新しい会員の加入が少ない ○サークルなどで人数の確保が難しい

解決策

☆市民のニーズ調査をする ☆新しいメニューを開発する ☆生涯学習マップの作成 ☆少人数のグループへも講師を派遣する ☆年代別講座の開設 ☆同じメニューを場所を変えて何力所かで開催する ☆メニューの整理と多様化 ☆出前講座の拡充とPR ☆資格の取得可能な講座開設 ☆地域（学校）の講師を活用 ☆途中参加を認める ☆地区行事を子ども・お年寄りを中心としたものにする ☆講師・人材の育成と確保 ☆著名人の講演会を開催する ☆利用できるバスを増やす ☆振興センターの事業を増やす

☆情報紙を発行する ☆自ら情報収集に務める（アンテナを高くする） ☆仲間づくり（団体、グループから情報発信） ☆広報手段の充実（月刊・年間メニューの通知） ☆ホームページ等で情報を提供する ☆公民館掲示板を活用する ☆世代間交流を通じて情報提供する ☆有線放送や振興センターだよりに盛り込む ☆窓口での細かな情報提供 ☆生涯学習カレンダーの配布 ☆情報や文字が多すぎないよう工夫（読みたくなる工夫） ☆半月前の広報に個々の講座を掲載 ☆生涯学習を知る機会を設ける

☆適切な方が直接参加者を誘う ☆宣伝を良くする ☆リーダーを養成する ☆学習メニューを多様化する ☆交通手段を確保する ☆講師の選定を工夫する ☆講座修了生は自主サークル活動をする ☆行政の対応を改善する ☆講座内容の充実（年代別、性別）と体験受講 ☆地区民が参加できる役割分担 ☆年代別の種目、行事をつくる ☆参加しやすい環境をつくる ☆開催場所を多くし、時間を工夫 ☆地域で交流機会を深める ☆交代出席と受講年齢指定

☆親子で参加できる講座づくり ☆子育て者への支援（金銭的支援と雇用主に理解を求める） ☆楽しさをアピール（活動内容の周知） ☆仲間づくりの創意（口コミ拡大） ☆所得を倍増させる（生活の安定） ☆男性の意識改革 ☆身近なところで様々な生涯学習を行う（振興センター） ☆参加しやすい時期・日程の設定 ☆住民ニーズの把握 ☆資金援助を行う ☆定住者を増やす（働く場の確保）

若い世代の参加が少ない

- 若い人たちの参加が少ない
- 地域行事への参加が少ない（若い世代、学習仲間）
- 地域活動への参加が少ない
- 若年層の取り込み

解決策

☆自治公民館単位で興味のある行事の設定 ☆小さいグループの集会を多くする ☆若い人向けの内容の講座を開く ☆若い人に参加を促す ☆若い人が集まりやすい曜日・時間を設定工夫する ☆若者向けに施設の情報を流す ☆若者に接触する ☆地域の先輩などが子育て世代へ協力する（ボランティア） ☆ニーズにあったメニュー提供 ☆積極的に声かけをする ☆役員の負担を減らす ☆小さいときから地域活動の必要性を指導する ☆プロの育成 ☆若い人へ意識調査を行いテーマを決める

時間的なゆとりがない

- 時間にゆとりがない
- 時間的な余裕がない
- 地域の役員などで忙しい
- 忙しいため学習できない
- 時間がとれない（会合の重複と余暇の減少）
- 余裕がない（時間・金銭面）
- 働いている人は特に時間的余裕がない

解決策

☆時間作りを工夫する（自ら率先） ☆行事を年間で平準化する ☆行事を整理統合する ☆遠い人の交通の便を確保 ☆勤務時間内でも学習できる体制づくり（職場、家庭の理解） ☆スキルアップできる講座内容を準備する（忙しくても実践に役立つ） ☆時間帯の調整・自らの時間設定 ☆同じ人に役員が集中しない配慮 ☆自分で工夫する（自己解決） ☆積極的に時間作り（早起きなど） ☆受講できるようニーズ把握 ☆若い人にあまり残業をさせない ☆短時間でできる工夫をする ☆みんなの意見を聞いて行う（広い年齢層の） ☆楽しみを見いだす

生涯学習への理解度が低い

- 生涯学習が何かわからない
- 各地域の活動状況がわからない
- 生涯学習って（必要性の是非）
- 生涯学習に無関心である
- 自主性に乏しい（積極的に参加する意識が弱い）
- 生涯学習の位置づけが不明確
- 生涯学習について意識化されていない（普段意識されていない）

解決策

☆情報をきめ細かく提供する ☆メニューを住民から募る ☆必要性を周知する ☆人の集まる場に自ら出かける ☆振興センターで情報を得る ☆各地域の事業・予算を知らせる ☆わかりやすいパンフ、カレンダー、パンフを作成する ☆気軽に相談できる窓口の設置 ☆事前周知を図る（振興センター単位） ☆生涯学習の目的を整理する ☆目的を明確にした講座の企画 ☆趣味としての楽しみを持つ ☆面白みのある企画づくりをする ☆乳幼児の子育て支援（石鳥谷にもこどもセンターを） ☆名称を工夫する（親近感がわくネーミング） ☆実践することにより自然に意識化されてくる ☆リーダーを養成する ☆積極性を身に付ける教育をする ☆幼児から高齢者まで一貫したプログラムの策定

生涯学習の場所がない

- 集う場所がない
- 学習の場所がない
- 開催地が身近なところがない
- 地域内に活動の場所がない
- 児童生徒が体験学習できる施設がない
- 施設利用に制約があり十分でない

解決策

- ☆今ある施設を有効活用する（公民館・空き屋・無料化等使いやすく）
- ☆地域コミュニティづくり（隣とお付き合い）
- ☆市で積極的に整備（施設の新設）
- ☆振興センターでの計画を企画する
- ☆行政で自治公民館での開催を多く
- ☆地域でお金や知恵を出し合う
- ☆郊外型施設の充実を図る
- ☆古代を体験する施設
- ☆自主管理ができる利用制度にする
- ☆施設・設備の整備と拡充を図る

施設の不備

- 施設の充実が問題
- 公共施設の充実が必要
- 施設の整備と体系化が遅れている
- 雨天でも運動できる施設がほしい（ゲートボール等）
- 環境整備が不十分
- 施設が貧弱

解決策

- ☆老人が利用しやすいような設備を設置する
- ☆職員を増員する
- ☆ボランティアの活用
- ☆既存施設の有効活用と連携
- ☆必要とする施設の整備
- ☆多目的に使える新たな施設整備
- ☆今ある施設を改修し有効利用
- ☆植木の手入れ講習会を開く（手入れができる人を増やす）
- ☆コミュニティ会議（予算）からボランティアへ助成する
- ☆移転新築あるいは改築する
- ☆市債を発行する

交通手段がない

- 交通の便が悪い
- 交通手段がない
- 生涯学習会場への足の確保がつかない

解決策

- ☆開催時間を検討する
- ☆交通を確保する
- ☆地域の人と相乗りをする
- ☆乗り合いタクシー等を創設する
- ☆役場の人を送迎する
- ☆タクシー利用に半額助成する
- ☆バスの運行
- ☆地域まわりの講座の開催
- ☆バスの便やコースを増やす
- ☆バスに変えてタクシーを利用（タクシー券配布）
- ☆補助制度を創設する
- ☆生涯学習バスの運行
- ☆仲間等で声を掛け合い誘い合う
- ☆車の相乗りで協力し合う

学ぶきっかけや、学び方がわからない

- 学ぼうと思ってもきっかけがない
- 学ぶ方法がわからない
- 始めるきっかけがない
- きっかけが持てない

解決策

- ☆住民へアンケート調査を行う
- ☆財産を活用する（人・物・金）
- ☆指導者を派遣する
- ☆学び方について広報等で内容を知らせる
- ☆会話づくり
- ☆世話役の育成
- ☆仲間づくり
- ☆リーダー養成

開催時間帯が合わない

- 講座の開催時期が偏っている（農繁期の開催等）
- 開催日時を設定を考えてほしい
- 行事が重なり合っている
- 時間帯が合わない
- 講座開設の時間帯に工夫がない
- 受講しやすい時間設定でない（決まった時間にいけない）
- 諸事情で参加できない

解決策

- ☆職業・地域を考慮した開催時期を設定する（農業地域、行事など）
- ☆回数・時間を工夫する（同じ講座を複数回開催、昼夜の2回開催）
- ☆自らの都合とか優先順位を考える
- ☆強力なリーダー（世話役）の育成
- ☆世代別に実施する ☆夜間にも実施する ☆集まりやすい時間帯に開設（仕事、年代、性別） ☆仲間づくりをする ☆参加しやすい時間を調査する ☆地域役員等の固定化を防ぐ ☆二部開催方式で実施する（土日の開催）

親子や世代間のふれあいが足りない

- 子どもたちとの対話、親子の対話が不足している
- 青少年教育の充実（地域と子どもたちとのふれあいを深める）
- 児童のふれあいが少ない
- 青少年の生活習慣が気になる
- 親子のコミュニケーションが不足
- 地域、世代間のコミュニケーションが不足している
- 子育ての教育が必要

解決策

- ☆スポ少やTVを通じて共通の話題づくりをする ☆親、子ども、孫との話し合いをしていく ☆家庭教育を充実させる ☆小規模校の充実を図る ☆相互コミュニケーションを深める（親子、家庭内） ☆ふれあいの場づくりを推進する ☆家庭でのしつけを推進する ☆生活リズムを提言していく ☆郷土の良さを理解する ☆教育方針の建て直しを図る ☆一人ひとりが声をかけあいさつ運動を行う ☆自治公民館等で世代間交流を行う ☆学社連携による教育 ☆専門講師、アドバイザーでの教育

生涯学習に魅力がない

- 生涯学習に魅力がない
- 魅力ある行事が少ない
- 参加しやすくする工夫がない
- 講座に参加したことがない
- 人集めに苦勞する
- 趣味のある暮らしが満たされていない
- 団体活動の参加が少ない

解決策

- ☆個々の学習を優先する（グループ化は不要） ☆何を学びたいか調査する ☆途中からでも参加できる講座に ☆一人ひとりが魅力ある行事を工夫する ☆住民が関心ある講座にする ☆参加しやすい時期、時間帯工夫 ☆振興センターから働きかける ☆土日の講座を開催する ☆若い親に参加してもらおう ☆指導者の育成 ☆広報活動の充実強化 ☆仲間づくり ☆地域のコミュニケーションを図る ☆出席に張り合いが出るよう工夫

学習の機会がない

- 身近な場所で学びの場がない（求められる）
- 学習機会が減少している
- 学習機会がない（交通手段も）

解決策

- ☆各世代が楽しめる講座を開設
- ☆申し込み方法を簡単にする
- ☆参加しやすい場所で開催する
- ☆本人の意欲の向上を図る
- ☆学習の場を近場に設定する
- ☆通信学習の活用

予算の不足
<ul style="list-style-type: none"> ○予算が減少している（不足） ○生涯学習予算が少ない（地域バランス、普及のための予算） ○謝礼等の予算が足りない ○助成制度が足りない ○財政的援助がほしい ○活動に対する補助が少ない ○補助金がない。あっても早期に交付されない

解決策

☆生涯学習が大切であることを認識する ☆既存予算を有効に活用する ☆コミュニティや役所に期待する ☆成果と効率ばかりを重視しない ☆実績を積んでから予算要求する ☆市民ニーズに応える予算措置 ☆生涯学習助成制度の創設 ☆謝礼のかからない出前講座などを利用する ☆幅広い助成制度をつくる ☆振興センターに申し込み制度をもっと活用する ☆予算要望の体制づくり(仕組みが知りたい) ☆個々の活動に応分の補助を求める ☆補助金受給についての情報を振興センターで得る ☆市が助成金を交付する ☆地域コミュニティ会議で助成金を交付する

振興センターと生涯学習
<ul style="list-style-type: none"> ○振興センターの指導員が不足 ○自治公民館、振興センターの活用が足りない ○振興センター単位で受講できると良い ○地域コミュニティ活動との連携が足りない

解決策

☆市の制度（講師派遣事業）を活用する（利用条件の緩和望む） ☆講師に住民の立候補を促す（賞金をつける） ☆交流機会を設ける（三世代交流、結いの会の開設など） ☆小さな単位で学習会を開催する ☆コミュニケーションがとれる施策を展開する ☆地域コミュニティ4部会と連携を密にする ☆自治公民館連絡協議会に参加して活動の活発化を図る

そ の 他	
<ul style="list-style-type: none"> ○地域の伝統文化を伝える機会が少ない ○指導者・後継者対策 ○合併に伴う弊害 ○学習の地域格差 ○結婚できない人が多い(少子化) ○子どもが少ない ○道徳観が失われている(マナー) ○学習グループ、団体の育成強化が足りない ○農業の将来に展望が見えない 	<ul style="list-style-type: none"> ○環境（自然環境など） ○徳育の充実 ○組織の育成（乳幼児期、少年期のボランティアの組織づくり） ○郷土芸能の後継者育成 ○身近な知恵を活用していない

解決策

☆地域に関わる歴史講座を開設 ☆地域人材を活用し交流事業を増やす ☆指導者・後継者の研修会 ☆財政支援 ☆職員・指導者を充実、増員する ☆予算を確保する ☆振興センター単位での講座等の開催 ☆予算を地域に配分 ☆保育環境を良くする（保育料を安く、24時間保育） ☆若い人たちが参加できるサークルを考える ☆若者が集うまちづくり(若い男女の出会い) ☆企業誘致を進める(若い人たちの職場があればよい) ☆あいさつ運動に取り組む ☆家庭、学校等で指導する ☆団体等のPRを十分行う

☆人的交流の場を設ける ☆農業問題を学習する ☆子どもたちに体験させる ☆話し合いの場を設ける ☆地区道路の入り口に看板設置 ☆親自身の行動が必要(親の生き方、活動を支援する事業) ☆年齢別の集まり(若い人から老人まで) ☆指導者を育成し、参加できるよう工夫する ☆社会教育団体の地域の育成(役割分担)をする ☆現在の姿を保存する ☆広報活動の充実・強化 ☆人材登録をする(地域ごと、自薦他薦問わない) ☆活用する市民が工夫する